

ば、年老て後くゆきも證なからんなど論されつ、特に我のみを別室に招かれて、校長さまもくんに、我ら君が悲しき境遇は知れり、されど此の儘に學業を願せんはいさ惜し、強ひても伯父君に願ひて入學の手續きに及ばれたし。さ懇々勸められしうれしさ、我はいかに答へしやよくは覺へれど、唯かに入學を誓しやうなりき。

校門をいで、歸る道すがら、思ひは只中學の上へのみ走せて、早や制服の我を寄宿舎に描きなごしつ、家にかへりて伯父の前に至り、日頃の存念を語り中學に入れ玉ひてよと願ひしに、伯父君にがくしげに學費はいかに。あゝ我は餘りのうれしさに學費の事につきて考へ及ばざりしか。あらず、幼にして恩愛の情いと深かき父母の君を亡ひ奉りしとはいへ、我はなほ有難なる伯父君の在りしを、ふしや日頃より那ま着として見らるゝ我身なりとも、現在肉親のおいが一生の浮沈に關する事なれば、よもや見捨てばし玉ふまじと思ひしなり。されば部長校長の勸告をも聞き明し言を盡して、あはれ我が望みゆるし玉はれかし。切に願ひしかど、承けひき玉はず、さりごと何とて思ひ止まる能はず、再三再四度を覆れて哀願しけるに、終に伯父君の怒りにふれ斯くまでいふも猶我意を貫かんとするか、父母なき今日までも養育して遣はせし恩を思はぬ程の人非人、最早我は汝の縁はたつべし、如何にとも勝手にせよとさへ言はれたり、我は悲しさに胞蓋かりて言葉もいえず只涙のみ、如何にせばやと思ひわづらへど、ばら／＼として格別な筆も浮はず、漸く／＼にして伯母なる人にすがりて詫言をなし、其翌日伯父君より、自活すべく備後銀行に小使を勤むべしと申渡されぬ、悲しき口惜しき言はん方なし。

萬事休す、今は詮なし、ふしや百度千度願ふも聞き入るゝ伯父君には非らず、あはれ我が父母の在りしを、唯僅かの金だにあらば、斯かる苦しみはなかるべきに、聞けば我が同級の誰彼、中學に商業學校にあそび、のみならず、我がいさなる花子すら、こたひよ／＼京都に物學びせんとす、我は羨ましき恥かしさに胸破るゝばかり、あゝ我は運命を思ひては、やらん方もなき心地に涙あふれて、一夜を床に流す。

### ●小使

備後上下町 岩谷敏雄

あゝ我は何がために此世にうまれ來りしやらん、徒らに小さき胸を苦しめんとてか、あゝ神は何がために我を此土に出だせしやらん、空しく陽死の處ならしめんさてか、思へば悲しき我が運命！

さるにても今年の春、小學卒業證書授與式の折柄、我が甲の部長は我等卒業生を講堂に集めて、靜々として中學教育の必要をさき、今後何等の事業をなすにもせめて學中だけはすまじ置かでは、常にほかなき境遇にさすらひて、到底頭の上の時はなかるべし、青年にして學ばざれ

斯くして我は終に、萬斛の憾をのんで伯父君の命に従ひ、夢にだに  
期せざりし銀行の小使となりたり、涙のうちに此の十月月を……